

## バイオトイレを大分からカメルーンへ

～W杯がつかないで縁！大分県から初のJICA案件化調査～

国際協力機構(JICA)は3月13日、大分県大分市の合同会社TMT.Japan(横山朋樹代表社員)による、「バイオトイレを活用した下水道未整備地域における公共トイレシステムの構築に係る案件化調査」を「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として採択しました。

カメルーンでは都市部でも未だにトイレが整備されていない場所が多く、悪臭や水質汚染、感染症等の問題が生じています。また国立大学等の施設でもトイレが不足し、特に女子学生は自宅で用を足さざるを得ず、勉学に支障をきたすケースもあります。

今回の提案製品は、バイオトイレ「バイオミカレット」です。人間の体内に存在する微生物の力で尿を分解する同製品は、水・排水処理・汲取りが不要であり、2年に一度回収する処理後の分解媒体は、堆肥としても利用可能。日本では世界遺産の熊野古道に設置されるなど、インフラ整備の困難な場所で採用されています。今回調査では、首都ヤウンデの国立大学と市役所を対象に、実証事業に向けて製品の現地化のための調査を行います。

カメルーンと言えば、2002年日韓サッカーW杯の代表チームが大分県中津江村(当時)でキャンプを行ったことで有名です。W杯以来友好を深めてきた大分県発の技術が、カメルーンの発展に貢献する日も近いかもしれません。



(左)バイオミカレット (中央)カメルーンの小学校のトイレ

(右)故障し、適切に使用されていない大学のトイレ

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2014年度第2回目は昨年11月に公示を行いました。129件の応募のうち25件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

### 【本件に関する問い合わせ先】

JICA九州 小西(担当)

TEL: 093-671-8204

e-mail: Konishi.Yoko.3@jica.go.jp